

第 5 回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録

- 日 時 平成 23 年 11 月 18 日（金）14：00～16：00
- 場 所 津山市役所東庁舎 E 302 会議室
- 出席者
 - ・津山市教育振興基本計画検討委員 8 名
 - 委員長 松岡信義（美作大学短期大学部教授）
 - 副委員長 林宏和（津山市 P T A 連合会会長）
 - 委 員 岡田正（津山工業高等専門学校教授（副校長））小坂田昌平（津山市体育協会会長）可児通宏（くらしき作陽大学非常勤講師及び津山市文化財保護委員）國藤義隆（自営業役員）檜本真弓（一般公募）八木芙佐子（津山市文化連盟会長）
 - ・検討委員会オブザーバー 3 名
 - ・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 14 名

1．開会

2．委員長あいさつ

3．議事

第 2 章

（事務局説明）

- ・基本理念を掲げ、また 3 章に続くように基本目標の構成を変更した。
- ・目指す人づくりの項目を 4 つに分けて表わした。

（委員から）

- ・津山の教育はこういうところから始まっているんだと説明できるものになっている。総論としては、こういう方向で、これを基にこういうところを伝えていこうということが伝わってきてよいと思う。
- ・前回から比較して、資質の高いもの、より高いレベルのものを常に求めていくという印象を受けた。レベルが高くなっているなという思いはした。
- ・盛り沢山とは思いますが、漏れはないと思う。「個をつなぐ力の育成」といわれた時に、それが指す意味が分かりにくいように思う。
- ・津山らしさについて、今までの議論を踏まえた上で読むと分かるのだが、これを初めて読んだ方が果たしてそれを津山らしさと思うのだろうかと感じてしまう。
- ・今まで議論してきたからこそ、このような文章が書けたと思う。津山らしさを意識しながらというのは、すでに何かがあってそれを意識するというのではなく、津山らし

さは何だろうかと模索していくということでもあろう。

- ・津山の先人から受け継いだものには、学問の他にも、たくさんの偉大な人たちが作った生きる土台があり、それを知っていくことが大事だと感じた。
- ・理念を表わす上で大事なものは、それをどういう意識の基に書くかということだ。
- ・津山にあって今一番大事なものは何かというと、歴史の継承がなされていないなどの切実な思いがあって、その思いの上に出てきた言葉が「つなぐ力」であると思う。
- ・家庭、地域の教育力の低下を乗り越えるために、総体として課題を克服する力をそれぞれが持ち合わせ、連携し課題を乗り越えるための「つなぐ力」であると思う
- ・グローバル化が進めば進む程、自らがよって立つ文化、歴史、社会を大切に思う気持ちが大変重要になる。津山に生まれてよかったと思えるように、自分で勉強して体に染み込ませることが国際人としてやっていくために必要であろう。

第 3 章

(事務局説明)

- ・今後 5 年間に取り組む施策について記載した。

(委員から)

- ・目的と目標が切り分けて記載すべきである。

その他

- ・第 6 回検討会の開催について
平成 23 年 12 月 14 日(水) 15 時開会

4 . その他

なし

5 . 閉会